



防災訓練 風景

「療育サービスと地域支援の
充実を目指して」
看護科長 山岡俊枝

今年には記録的な猛暑で、九月になっても気温が高い日が続きました。それと同時に、新型インフルエンザの学級閉鎖の新聞記事を目にする季節になりました。当センターも十二月で開設五周年を迎えます。今年度は、中・長期計画の「発展期」の最後の年で、「医療とQOLの追求」をテーマに、毎年目標を立て、実施・評価し、積み上げてまいりました。

今年度療育部では、安全と安心の療育ケアの提供、療育サービスの充実、地域支援の充実を目標にして進めております。安全と安心の療育ケアの提供、療育サービスの充実のためには職員の育成が不可欠です。各種院内研修の充実、学会や研修への参加による知識・技術の獲得と向上、そして療育ケアを提供する上で重要な臨床倫理に関する研修も行っています。新人職員の育成を計画的に行い、四月に入った新人看護師も順調に成長しております。

活動面では、できるだけ全員の方がバスハイクに出かけられるよう各部門で連携して実施しています。また、昨年からは医師、看護師、支援科職員、リハビリ科とプロジェクトを組み、研修

やシミュレーションを行い、呼吸器を装着している利用者様のプール活動を始めました。病棟・通所も含め計画に沿って実施しています。利用者様の反応は始めての方が多かったですが、リラックスされていました。ご家族の方も、「プールは入れないと思っていた。良かった」という声が聞かれています。地域支援では、在宅療育が広がっている中で、できるだけ多く短期入所を受け入れ、ご家族の希望に応えられる様に努力しています。年々、短期入所の希望は増加しています。二十一年度の短期入所者は四百四十六件、延べ日数三千九百三十七人で、二十年度と比較すると、約二倍になりました。これからも、中長期計画をもとに、安全で安心な療育ケアの提供を目指し利用者様の笑顔がたくさん見られるよう努力してまいります。



通所夏祭り

八月二十三日から二十七日までの一週間、通所では「夏祭り週間」とし、夏祭りの雰囲気皆様楽しんでいただこうという活動を行いました。

サンバの激しいリズムでオーブンリーグとなった「夏祭り週間」。利用者様も一緒に踊りを楽しみました。ヨーヨー釣り・宝探し・射的・クレーンゲーム・肝試しなどのミニゲームを楽しみ、火・水・木曜日には夜店の雰囲気を感じました。お一人おひとりに配ったシールカードは、それぞれのゲームを行うと面白いシールで埋まってゆきました。全部埋まった方、一つのゲームに夢中になる方、楽しんでいる方を眺める方とそれぞれの楽しみ方をされたようです。最終日はやはり盆踊り。観客・踊り手二手に分かれて交代で行いました。

新しい試みでの「夏祭り週間」は、色々なことがゆつくりと楽しむことが出来たと思います。



夏祭り週間
ヨーヨー釣り

呼吸器を装着している 利用者様のプール活動

七月二十六日にプール活動があり、私は受け持ちの小学六年生A君とプールに入りました。A君にとっては、生まれて初めてのプール。昨年度の準備期間を経て、今年度から呼吸器装着利用者様のプール活動が始まりました。プール活動の前、利用者共々ワクワクしていましたが、初めてのプールの支援ということで緊張感もあり、その気持がA君に伝わってはと思い直して、緊張感を持ちつつ楽しんで活動をしようと考えました。

そして当日。緊張気味であったA君も、お母さんや分教室の先生が来ると少し落ち着いて、その場にいた職員と「ハイチーズ」。リラックスした気持ちでプールに向かいました。しかし、いざプールに來てみると、自分の方が緊張してしまいその思いがA君に伝わったのが、互いに表情が硬くなってしまいました。しかし、リハビリスタッフの方や先輩職員からのアドバイスに助けられながら取り組んでいくと徐々に私もA君への声かけ等が出来るようになり、A君の表情も和らいでいきました。写真をパチパチ撮っているお母さん、病棟スタッフや医師による医療的ケアのサポートを受けながら取り組

み、気づくとプールにいる皆が笑顔で笑い声が飛び交うような明るく楽しい雰囲気の中行うことが出来ました。今回の経験を通し、他職種の方々と連携の大切さ、不可欠さを改めて感じる事ができました。今後この経験を踏まえてA君にとって充実したプール活動が行えるように取り組んでいきたいと思えます。



バスハイクに参加して

栄養科 村松かおる

六月、初めてのランチバスハイクに参加しました。単に外出だけでなく、食事を組み込んだバスハイクの実施は栄養科にとっても待ちにまつた企画でした。

バスに揺られ期待を胸に、豪華なホテルのドアをくぐり、真っ白なクロス

のテーブルでランチがスタートしました。まず、熱々のカボチャスープと焼きたてのパン（バターロールとミルクロールの二種類で、お代わり出来ます）そして、スプーンで簡単にほぐれる柔らかく煮込んだ豚肉をシチュー仕立てのデミグラスソースで頂きました。少し工夫が必要な場面もありましたが、参加の皆さんはムせることなく、美味しく召し上がっていました。

センターで作り出せない雰囲気は倒されながら、栄養科の食事もこのランチに追い着けないものかと考えつつ、私も最後にミルクたっぷりのコーヒーを飲んで満腹で幸せな時間を共有しました。デザートはセンターに帰ってから「おやつ（アップルパイ風）」を食べて頂きました。

これから参加の皆様、乞うご期待！さらに、近い将来に皆の大好きなTDホテルに行ってランチをしたい！と野望を持ちつつ帰路に着きました。



花火を楽しむ夕べ

八月四日、十一日、十八日の三日間今年度最初のセンター大行事

「花火を楽しむ夕べ」が開催されました。連日の猛暑の中、利用者の皆さんは、浴衣や甚平に団扇や手ぬぐいといった装いで、暑さを忘れさせてくれるかのように、花火大会の雰囲気よりも一層盛り上げてくださいました。

例年通り、手持ち花火から始まり、打ち上げ、噴水、ナイアガラといった花火を楽しんでいただきました。少し風向きが悪く、煙の多さに参加した皆さんには不快な思いをさせてしまい申し訳なく

たのですが、それもまた花火の醍醐味といったところで、来年以降の課題したいと思います。

昨年度の花火大会最終日に、来年は今年以上のものを・・・と参加された皆さんの前で約束をした通り、今年度は、打ち上げの数も増えて、「迫力があつた」、「予想以上に盛り上がって楽しかった」との声も多く聞く事ができました。

夏の風物詩である花火大会、来年度も今年以上のものを皆さんと一緒に楽しむ事ができるように、企画・実行したいと思っています。三回に亘る花火大会を無事終える事ができます。関係者の皆様には感謝したいと思います。有難うございました。



大迫力のナイアガラ

東部なくに

屋外療育場の小川をご存知ですか？

一階通所と乳幼児通所の間の廊下のドアを開けると療育場があります。春には姫リンゴ、野いちご、山吹の花々そして大島桜やつつじなどが続き、芝生の緑が映える頃には療育場が一面緑に包まれます。秋には、かえでやどうだんつつじの真っ赤な紅葉そして黄色に色づいた桂やカリンなどが散策を楽しませてくれます。

その療育場のほぼ中央に東屋があり、大きな石組みの間からツワブキの濃い葉陰に心地よい響きで小さな滝が流れ落ち、そのまま小川となっています。真夏にはひまわりやセージなどの咲く傍らを涼しげな音を立て流れています。浅いところは、小鳥の水場にもなっています。興味を引かれた方は、一度ご覧あれ！



ボランティア紹介

佐藤 紀子さん

「私にも何か出来る事有るかしら？」

とあれこれ考えていましたが、考えていても何も始まらないのでまずは行ってみようとして東部療育センターのドアをたたいたのは二〇〇八年十一月の事でした。何の特技も無い私は利用者さんの話相手をする事になり、まずはクラブ活動に潜入。私を知ってもらうためにいっぱい話しかける事にしましたが、うん・・・今日は失敗。今日はいっぱい笑ってくれた。こんな事を毎回繰り返して今では二人の方と日常会話を週一回しています。グループの時と違い一対一。私からの一方通行にならない様にするにはどうしたらいいのだろうかと色々試し悩んだ結果、何の事は無い・・・時間がかかっても「あ・か・さ・・・」と五〇音で一つ一つ表情を読み取りながら他愛の無い友達トーク。これを二人の方は望んでいたのです。もうすぐ二年。これからもゆっくり無理なく進みます。センターの皆さんよろしくお願いたします。



写真：佐藤紀子さん

東部あれこれ

今年の七月から九月にかけて当院で行われた行事等について紹介します。

【七月】

センター開設から五年目に入り、平成二十三年度の東京都に向けた予算要望は次のような項目でした。「電子カルテと看護・療育システムの連携を図りやすくするためのシステム更新」「質の高い医療サービスを提供するための遠隔画像診断システムの導入」「脳の状態を的確に検査できるMRIの整備」「在宅療養を支援するための医療機器貸し出しの増額」等。



MRI (イメージ)

【八月】

十一日(水)に職員互助会の評議委員会が開催され、遅ればせながら平成

二十二年度の運営方針が決定されました。委員会では、今年が開設五周年に当たり、十二月一日(水)に「有馬院長の記念講演」が行われるため、合わせて「職員親睦会」を実施すること、などが決まりました。

【九月】

三十日から江戸川区において第三十六回日本重症心身障害者学会学術集会在開催され、多くの職員が参加しました。今回は開催場所が江戸川区という近さもあり、当センターの入所者様三名が、装いを凝らした衣装(宇宙にきらめく星をイメージ)でファッション・ショーに出演しました。



重症心身障害者学会学術集会(船堀タワーホールにて)

参加者の皆さん(写真左)
記念講演: 有馬院長(写真右)

地域療育連絡会

九月二十九日に地域療育連絡会の定例会が東部療育センターで開催されました。これは都内の主に幼児を対象とする施設が集まり、地域での発達障害児の療育の推進や療育内容の充実を図るための交流・研究を行う会です。今回は都内二十三施設、五十名の参加があり、大変盛況でした。

連絡会では乳幼児から学校までの一貫した支援体制の検討が課題になっており、今回も「就学後の支援」をテーマにアンケート結果の報告や実践報告を行いました。終了後には施設見学も行いました。今後関係機関と連携を深め、新たなニーズに合わせた支援の検討をしていきたいと考えています。



総合防災訓練(表紙写真)

厳しい暑さが一向に去らない九月一日、東京湾北部を震源とする首都直下型地震により四階機械室で火災が発生したという想定のもとに防災訓練を実施しました。

訓練は、防災センターからの地震発生放送に伴い直ちに院長以下、運営会議メンバーによる災害対策本部を中央監視室に設置し、各部署の被害状況の把握、消防署との連携、利用者様及び職員の安全確保に努めました。

センターでは、今後も防災対策に万全を期し、事あるごとに訓練を実施していく心構えです。

編集後記

今年の夏は、テレビや新聞のニュースはもちろん、何処へ行っても記録的な猛暑の話題ばかりで、中でも熱中症については認識を新たにしました。思い返してみれば、昨今の今頃は新型インフルエンザの脅威が喧伝されており、それへの対応をどうするかで大騒ぎでした。常に危機意識を持ちながら暮らすことが大切だと感じるところです。